



学校便り

No. 18

※番号は昨年度から継続

夢・挑戦

令和3年1月15日

水俣市立水俣第二中学校

校長 高橋 裕二

やればできる、かならずできる、ぜったいできる!!

皆さま、明けましておめでとうございます。3学期の始業式に、以下の2つの内容を生徒に話をしました。

1つ目は、3学期中に今の学年の学習内容、特に基礎・基本は確実に身につけてください。勉強は楽しい訳ではありませんが、大人になり、仕事や社会生活で使われる言葉や漢字、英単語、計算などの意味が分からなくては、楽しく過ごすことはできません。年末から全国高校サッカー選手権大会が行われていましたが、旧三中出身で神村学園に進学した教え子から、11年前の同じ大会でベスト8に進出した記念に、スポーツタオルをもらい、「やればできる、かならずできる、ぜったいできる」と書いてありました。

3学期、生徒の皆さんが一番頑張ることは、勉強です。「やればできる、かならずできる、ぜったいできる」の気持ちで、勉強してください。



【生徒会改選立会演説会】

2つ目です。2学期終業式で、心は毎日の生活態度や行動に表れるという話をしました。冬休み、私は同じような内容の書かれている本を偶然読みました。著者は、10年前に甲子園春夏連覇の偉業と同時に、沖縄県に初めて夏の甲子園優勝を達成した興南高校野球部の元監督で、現在は興南高校校長である我喜屋校長先生です。「伸びる子と伸びない子の決定的な違いは、『心』にある。『心』は行動や態度、立ち居振る舞いにあらわれる。」と述べておられます。我喜屋先生は、野球よりも生活態度を厳しく指導され、「人の嫌がることを率先してやる。どんな小さいことでも、力を抜かない。嫌なことやつらいことから逃げない。」を信念に、生徒を育てられました。この3つで、人生は必ず好転していきます。学校生活では、あいさつをする、ごみを拾う、隅々まで掃除をする、はきものを揃える、あと片付けをする、時間を守る、1分間スピーチができることなどを大切にされました。

生徒の皆さんも、今自分ができると、今日自分ができるとを全力で行い、心の成長を行動や態度であらわしてほしいと思います。

新しい生活様式を踏まえた修学旅行

2年生は、12月6日(日)から2泊3日で、奈良・京都方面へ修学旅行に行ってきました。去年は、どこに行っても、バスに乗っても、食堂に入っても、外国からの観光客の方が多く、外国語が飛び交い、「ここは日本かな」と錯覚するぐらいの人混みでした。しかし、今年は一転、清水寺を除いて旅行先はガラガラでした。清水寺も修学旅行生ばかりで、熊本県の中学校とも何校かと出くわしました。観光地の人出は、去年の1/100以下だったような印象でした。



【清水の舞台】

今年、新型コロナウイルス感染症対策を第一に行動しました。全員が携帯型消毒液を持参するとともに、バスに乗る前や食事前、トイレ後など1日に数十回、手を消毒しました。また、必ずマスクを着用し、新幹線やバスの中では、できるだけ話をしないようにするなど、これまでとは全く違った修学旅行となりました。1262年に建立された日本最古の禅寺である建仁寺の住職様より、「当たり前は、当たり前でない」「今、この一瞬を一生懸命生きる」「自分のことしか考えない人間になってくるので、座禅によってみだれた心や呼吸を整える」などの貴重な説法をいただきました。

最後に、保護者の皆様のご理解とご協力により、修学旅行を無事に実施でき、感謝申し上げます。

修学旅行先の京都嵐山で、私が20代後半に同勤していた先生(帯山中)と、約30年振りに出会いました。私を見るなり、「先生が3年間野球を教えた生徒の息子がいます」と、2年生の男子生徒を紹介されました。「部活動は何してる?」と尋ねると、「野球部です」と答え、父親と同じ投手をしていました。生徒に名刺を渡して別れました。後日、父親から二中に電話があり、彼が成人となり、同級生の野球部員5、6人で私の水俣の実家に泊まりに来て以来、声を聞き、お互い懐かしく思ったところでした。彼は現・秀岳館に進学し、3年時、夏の熊本県大会決勝で投手として先発しましたが、甲子園出場はかないませんでした。ところで、「息子は、自分より野球がうまい」と話していたので、二中野球部員に帯山中のことを尋ねると、秋の熊本市新人戦で優勝したとのこと。今年の春や夏の県大会で、二中と帯山中が対戦することを楽しみにしたいと思います。